

水産基礎 B ( 2 単位 )

必修

1 学年

授業の概要	( 内容 ) 水産に関する各専門分野の基礎的知識や技術を習得します。		到達目標	水産基礎 A の座学による知識の習得とともに、水産に関する技術の習得も大切です。 そのためには、体力・気力を養い、海における安全を確保するための能力を育成し、海に関する関心を深めることを目標とします。
	( 形態 ) 実習			
年間の授業計画		項 目	内 容	
	一学期	4 5 6 7	オリエンテーション、団体訓練 基礎実習（操艇、操船、水泳、遠泳、地引き網） 海洋実習	基礎実習の目的、内容説明 団体訓練により、集団の一員としての自覚ある行動をします。その成果を基礎実習に反映させます。7月の実習のまとめとして1年全員で遠泳を実施します。
	二学期	9 10 11 12	専門コース毎の実習をローテーションを組み実施する	専門7分野の基礎実習を学び、体験することにより、自分の適正を見出し次に進む1ステップとします。
三学期	1 2 3	専門コースに分かれ、2年次に向けた、基礎実習を実施	自分が進むコースの実習を受けます。これは、2年生からの専門実習へとつながります。	
学習方法	授業は2時間連続です。1年生4クラス、同じ曜日、時間に設定してあります。実習ですので、特に遅刻、欠席、服装の乱れには厳格に対応しています。チャイムと同時に授業を始めますから実習指導に入れる体制で整列し、先生の指示を待ちます。			
評価方法	実技テスト 50%		平常点 50%	
	専門技術力 操船技術の習得 操艇法の習得 水泳（泳続時間及び距離） 漁業実習（地引き網実習）		出席状況（遅刻・欠席）服装（体操服） 実習への取り組み 協調性（集団の一員） 積極性（内容の理解）	
教材	教科書 『水産基礎』（文部科学省） 第4章 基礎実習		アドバイス	・生徒の共通点は海が好きなおことです。これが一番重要だと思えます。 ・ほとんどの生徒が、船に乗るのは初めてです。魚に触れるのが初めての生徒もいます。泳ぎの出来ない生徒もいます。しかし、やる気があれば全て身に付きます。